

# 平成21年度 学校自己評価システムシート（県立南稜学校）

目指す学校像	学力、体力、社会規範を身につけ、国際社会で自信と誇りを持って生きる若人を育成し、地域の信頼に応える学校づくりに努める
重点目標	1 生徒の学習意欲と学力の向上を目指し、学習指導の充実に努める。 2 心豊かな生徒の育成を目指し、積極的な生徒指導を推進する。 3 生徒の進路実現を目指し、進路指導の充実に努める。 4 保護者、地域の信頼に応える、開かれた学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	13名
	事務局（教職員）	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価（1月27日現在）		
年度目標					年度評価（1月27日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員同士の授業研究が進みつつある。</li> <li>生徒アンケートによれば、授業に満足している生徒がふえたが、授業研究の継続が必要である。</li> <li>全般的に家庭での学習時間が少ない。</li> </ul>	授業の充実と生徒の学習意欲向上 ・授業改善及び生徒の学習習慣定着を促す取組を進める ・生徒の授業に対する姿勢を向上させ家庭学習習慣の定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善に向け、教科の枠を越えた教員相互の授業公開・授業研究を推進する。</li> <li>全教科で活用できる「授業アンケート」を工夫し、活用を通じて授業改善に生かす。</li> <li>各教科で、小テストを課す、問題集を持たせるなど、生徒の自学自習の意識を高める方策を検討・工夫し、家庭学習の時間増につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開の講座数、参観者の延べ人数。</li> <li>「生徒アンケート」における授業満足度の推移。</li> <li>生徒の放課後や家庭での学習時間。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に加え、新たに2学期にも実施し、合計15講座を公開（対前年5講座増）。授業研究の成果を職員研修会でも発表した。</li> <li>生徒アンケートの授業満足度は、対前年ほぼ横ばい。放課後や家庭での学習時間は、「ほとんどしない」が、平日で8%、土日祝日で10%減少し、改善した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開の参加者増、授業アンケート実施増とその結果を生かした授業改善に全校で組織的に取り組む。</li> <li>生徒の授業への取り組みの強化、家庭学習の拡充に向けた施策（宿題、小テスト、問題集等の活用など）にも組織的に取り組む。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動、学校行事等が盛んで、生徒の満足度がかなり高い。</li> <li>基本的な生活習慣や、規範意識が身に付いていない生徒が一部にいる。</li> </ul>	基本的生活習慣の定着 ・生徒の時間を守る意識を向上させる ・制服を正しく着用させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒部・教務部・各学年が連携し、時間を守る意識を涵養し、時間を守る校風を確立するための取組を工夫する。</li> <li>月1回の身だしなみ指導を効果的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻者数の推移。</li> <li>授業のチャイムtoチャイムの徹底状況。</li> <li>生徒の制服着用状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組みの強化によりわずかに減少傾向だが、2学期に急増するパターンは不変。特定の生徒が常習的に遅刻。</li> <li>チャイムtoチャイムは、改善傾向だが、ばらつきがある。</li> <li>学校指定セーターの着用が定着し、制服着用の意識付けが浸透。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「時間を守る校風の確立」に向け登校時間や集合時間について毅然とした対応、根気強い取り組みを継続</li> <li>身だしなみ指導は、月1回の点検日に加えて、日頃から組織的に取り組む。</li> <li>PTAとの連携を強化する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の進路状況は大学短大60%、専門学校27%、就職他7%であった。</li> <li>大学・短大受験は、指定校推薦、一般推薦、AO入試等が多い。</li> <li>1、2年次の進路指導の一層の充実が求められている。</li> </ul>	進路指導の充実 ・将来を見据えた進路意識を向上させる取組を進める ・目標大学に一般受験でチャレンジする生徒を増やす取組を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導の見直しを行い、1年次から将来の進路を意識させるキャリアガイダンスを取り入れる。</li> <li>保護者・生徒への進路ガイダンスを充実させ、保護者に進路情報を提供する。</li> <li>卒業生の進学体験を進路指導に活かす。</li> <li>学力上位層を伸ばし、一般受験にもチャレンジさせる南稜計画を1学期に決定し、2学期以降に実行に移す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにおける、生徒・保護者の進路に対する意識。</li> <li>ガイダンス機能及び情報提供機能充実のための取組状況。</li> <li>南稜計画の策定・実施状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路行事は、保護者対象のもの、卒業生を交えたシンポジウム、予備校の講演など多様な試みで好評。</li> <li>生徒アンケートで、自身の進路の取り組みには変化なし。大学進学セミナーの充実度は、対前年でプラス評価が7%増加。</li> <li>長期的に進学者が増え、進路未定者は減少している。今年度も進路の確保に向けて全力で取り組んでいる。</li> <li>南稜計画は、習熟度別や特進クラス導入を中心に検討したが、共通理解が得られなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>南稜計画の検討結果を生かし、新教育課程の編成も含めた対策を検討、実施する。</li> <li>4年制大学進学増加、就職環境の悪化等に伴い、進路指導の重要性が増し、保護者ニーズも高まっている。就職については内定の確保が最重要。進学については、一般受験の活用も含め、第一志望の達成率を高める。進路決定までのプロセスで、学力向上を含む生徒の成長を促進する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校への教員・生徒の派遣、大学・専門学校等から講師を招く取組、生徒の地域でのボランティア活動など、小中学校や大学、地域との連携が進んでいる。</li> <li>保護者・地域の、本校の教育活動に対する理解と信頼度・期待度は高い。</li> </ul>	開かれた学校づくりの推進 ・地域との連携・協力体制を一層充実させる ・保護者への積極的な情報提供を行い協力体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教育活動を地域に積極的にPRし、理解を深める契機となる30周年記念式典を実施する。</li> <li>学校情報を、ホームページやメール配信サービスを通じ、地域保護者に発信する。</li> <li>学校評価懇話会の運営等を見直し、保護者・地域・生徒の意見を学校経営に反映させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に感謝すると共に、本校の教育活動をPRする周年行事の実施状況。</li> <li>保護者・地域への情報提供の状況。</li> <li>学校評価懇話会の運営と学校経営への反映状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30周年記念行事はすべて成功。</li> <li>メール配信システムを刷新。登録数も増加。</li> <li>学校評価懇話会ではテーマを授業・学習にシフトし、委員、生徒の活発な討議が行われた。</li> <li>保護者アンケートで「子どもを南稜に入学させてよかったか？」への肯定的回答が95%超。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>南稜計画の議論に加え、評価懇話会で語られた生徒の進路希望や授業改善等に関する議論を生かし、学力向上、進路の充実に向けた具体策をとりまとめる。</li> <li>学校ホームページの刷新を行い、情報発信を強化する。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日	平成22年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習が増えるよう、宿題やレポートなどの課題の出し方に工夫が必要。</li> <li>学習時間を増やすためには、家庭学習だけでなく、放課後や土曜日の活用も検討すべき。</li> <li>生徒アンケートで、学年が進むにつれて「しっかり勉強する」が減っているのが気付き。部活動で忙しいから家庭学習ができないという生徒の意識があるとすれば心配だ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に公私の別を意識させ、制服の意味を考えさせることが大切。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>高いレベルの大学進学を目指す生徒が、一定数いるはず。クラスを分けるという方法が無理なら、単位制の導入という選択肢もあるのではないか。</li> <li>進路決定時の成績で入れる大学を選ぶのではなく、就きたい職業、入りたい大学を目標として、必要な成績をとれるように勉強する、という流れの進路指導を徹底すべき。</li> <li>南稜計画は、検討の継続、話し合いの過程も大切。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートでは保護者、生徒とも満足度は高く、学校はこのままでよいとの意見もあるが、南稜として新たな特色を作る取り組みを始めるべき。</li> </ul>	